

佐藤俊一

■裏(うら)

▽心はおもて(面)に 隠れたうらよ 見えぬからこそ うらめしい
——「裏(うら)」は「心」のこと。心(うら)寂しい、心(うら)悲しい～。

- ① 歓待しますよ 裏からおいで 日本の心は おもてなし
- ② おもてなし 受けて嬉しや つい凶に乗って 記憶飛んでた 心(うら)悲し
- ③ 裏の心は 目には見えぬし 腹も読めぬじゃ 心(うら)寂し
- ④ 心はウラで おもての口とは 思うところは 裏腹よ
- ⑤ うらが「はら」なら おもては「せなか」 見える背中に ついてこい
- ⑥ 表地は 地味に徹して 見えぬ羽裏に 派手さしのぼす 江戸の粋

■波

- ⑦ 波の女に なっても君に 想い寄せては 返される
- ⑧ 波の女に なっても君に 逢えば心が 波立ちぬ
- ⑨ 心地よい 安寧もたらす 自然の“ゆらぎ” ほたる・木漏れ日 波の音
- ⑩ 人生は 舟(ボート)を漕ぐよに 引き波見つめ 背から明日へと 入りゆく
- ⑪ 夏到来 海の娘は 胸波立たせ 「あいたいよう」で 身を焦がす
——「愛・太陽～」(;^_^A

■待

- ⑫ くるかくるか と 待たせておいて やっぱりこぬか 雨がふる

■鍵(かぎ)

- ⑬ これからは 鍵持ち歩く 必要も無し!? 世間ますます 情(錠)なしに
- ⑭ あんたにかけた 情(錠)は残るも 心を開く key(気)はない

■花火

- ⑮ 恋(濃い)くれないの 打ち明け花火 なのにあなたは 目もくれない
- ⑯ 空も愛(藍)色 打ち明け花火 なのにあなたは 愛想なし